



横浜市議員 仁田昌寿

まさとし通信

発行
仁田 まさとし励ます会
〒232-0066 横浜市南区六ツ川4-1129
TEL.045-822-3410 FAX.045-826-0998
[Vol.7]



宮下厚相(左から3人目)に要望書を手渡す上田勇・神奈川県副代表、仁田市議(左)
=11日・厚生省

介護保険

自己負担の軽減図れ

仁田市議国民の不安訴え厚相に要望

公明党神奈川県本部は八月十日、厚生省を訪れ、来年度から施行予定の介護保険制度が円滑に導入されるよう、自己負担の軽減措置など求めた要望書を宮下創平厚相に手渡した。これには上田勇県副代表(衆院議員)とともに、仁田昌寿横浜市議らが同席した。

席上、上田氏らは「多くの国民が新たな負担となる保険料の水準、介護基盤整備の遅れに対する不安を持っている」「特別養護老人ホーム入所者で要介護認定の結果、比較的軽度となった場合に退去させられるのではないかという恐れを抱いている」などと指摘。その上で、①介護保険制度が円滑に導入できるよう、被保険者の自己負担の軽減措置の実施②配食、移送サービスなど高齢者の生活を支援する在宅高

齢者保険福祉推進支援事業の大幅な拡充③サービス基盤や高齢者住宅の整備等への一層の取り組み④自治体に対する国の特段の財政支援などを要望した。

宮下厚相は、介護保険制度について、「スタートしてみているところを直していきたい」との考えを示した上で、高齢者の生活支援事業を、ある程度増やしたいと述べたほか、生活面での手助けが必要な人向けのケアハウス(介護利用型軽費老人ホーム)の増設に前向きな意向を示した。

* 仁田まさとし *

ホームページ&メール

ホームページを開設しています！
皆様のご意見をお寄せ下さい。

[E-Mail]
nitta-m@yk.rim.or.jp

[URL]
http://www.yk.rim.or.jp/nitta-m

脳血管医療センター外観



全国初の 脳血管医療センターが開院

寝たきり防止に期待

高度医療とリハビリ実施

神奈川県横浜市磯子区内に、脳血管疾患の発症直後の治療から、リハビリテーションまでを一貫して行う全国初の専門病院「市立脳血管医療センター」が八月一日オープンしたが、これに先立って公明党の上田勇衆議院議員と仁田昌寿市議らが視察した。

同センターは高度の専門医療とともに、早期から症状に合わせたリハビリを行うことで、後遺症や再発を最小限に食い止める、寝たきりを防ぐことを目的としている。寝たきりや痴ほうの大きな原因となっている脳血管疾患。横浜市でも高齢化の進展に伴い、同疾患の増加が今後さらに予想されている。

同センターの診療科目は、「神経内科」「脳神経外科」「リハビリテーション科」「内科」

「放射線科」「麻酔科」の六科で、脳梗塞（こうそく）、脳出血、くも膜下出血などの脳血管疾患を専門に治療する。救急患者を三百六十五日、二十四時間対応で受け入れ、外来は地域医療機関からの紹介制。

地下三階・地上五階建てで、ベッド数は二百十五床（二〇〇〇年六月に三百床）。超急性期の症状に対応するポジトロン断層撮影装置（PET）や血管撮影装置、生体情報監視装置など最先端の医療機器を備える一方、寝たきり防止の要（かなめ）となる各リハビリ施設も充実。運動療法室や作業療法室をはじめ、リハビリテーション工学室、言語室なども完備する。入院患者に対し、高度医療とともに医師、理学・作業療法士、言語聴覚士、心理士などが一体となり総合的なリハビリテーションを実施することで、寝たきり防止に取り組む。

このほか、老人保健施設も併設する。同センターの退院患者で、機能回復訓練や介護が必要なお年寄りを対象に入所や通所のサービスを提供



高度医療機器を視察する仁田昌寿市議（右から2人目）たち

供する。入所定員は四十人（二〇〇〇年四月から八十人）で、通所定員は十二人。

仁田市議らは施設内をくまなく視察した後、関係者と意見交換を行った。

同センターの建設に当たっては、市議会公明党（石井睦美団長）も積極的に推進。脳ドックの実施による予防機能の充実など高齢社会に対応した医療体制の確立を目指して議会などで質問を重ねてきたのはじめ、施設建設の検討メンバーとして尽力してきた。